

東横線地下化跡地 散歩道づくり通信

2004.3.25 編集・発行 / 横浜市都市計画局企画調査課



緑道全体の地域による自立的・持続的な運営管理を目指し、 引き続き検討を続けていくことになりました！

2月23日午後7時から、神奈川区役所において「第5回東横線地下化跡地緑道運営管理検討会」を開催いたしました。昨年11月の第1回から第4回までの検討会で、熱心にご話し合っていたいただいた運営管理の「内容」と「しくみ」についてまとめ、緑道全体の地域による自立的・持続的な運営管理を目指し、緑道の供用に向け、来年度も引き続き検討を続けていくことになりました。

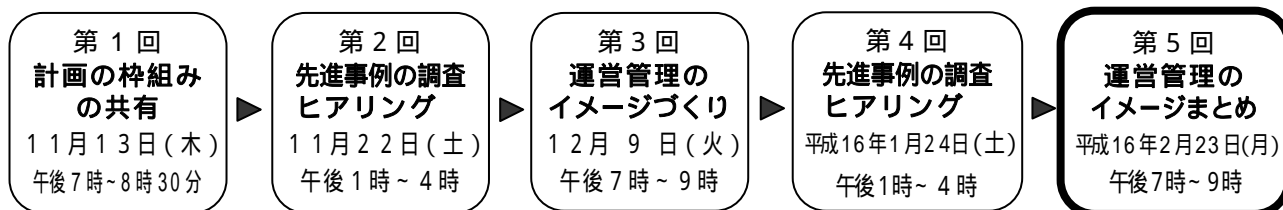
また、そのために必要な自主財源の確保についても、グループ毎に話し合い、様々なアイデアをいただきました。その結果は、来年度以降の検討に活用していく予定です。

今後も、地域の皆様との協働により、運営管理等について、検討を進めていきたいと考えています。



検討会に参加された皆さんで記念撮影

検討会の流れ



「検討会」でご検討いただいた運営管理の内容やしくみについては、検討会の皆さん、地元自治会・町内会や商店街、横浜市が協働で、実現に向けて調整を進めてまいります。

問合せ先

横浜市都市計画局企画調査課交通担当 中野、大須賀、清水
電話：671-3511 FAX：663-3415

1～4回検討会までに検討した運営管理の「内容」と「しくみ」をまとめました。

内容

「緑道で行いたい運営管理の内容」について、いただいた多数のご意見をまとめると次の項目に整理されます。

緑や花を育てる活動を行う。
定期的な日常の管理を行う。
緑道で福祉の活動を行う。
子供たちの遊びや学習活動を行う。
展示等、トンネルを活用する。
活動拠点として利用する。
防犯、防災、安全管理を行う。
イベント等により街を活性化させる。



検討会の様子

しくみ

「緑道で行う運営管理のしくみ」についても、多数のご意見をいただきました。そのご意見を次のようにまとめてみました。

緑道全体を運営管理する地域による自立的な組織をつくる。

地域による運営管理を目指す。

緑道全体の運営管理組織をつくる。

さらに、運営管理の中心組織をつくる。

持続的な運営管理を目指して

様々な組織や人たちと協力・連携する。

- ・自治会・町内会・商店街
- ・学校・保育園・幼稚園
- ・障害者団体
- ・ボランティア
- ・市民活動グループ
- ・専門家 ・企業
- ・行政等

有給の職員を置く

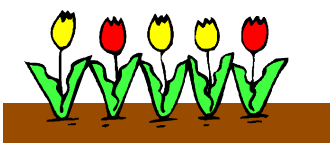
- ・総合窓口で常駐のマネージャーをおく。
- ・ボランティアだけでは長続きしない。
- ・運営管理のための専従スタッフが必要。

自主財源確保に取り組む

- ・駐輪場やトンネル等施設を活用して収入を得る。
- ・財源あつてのやりたい活動がある。
- ・財源を確保するための活動を第一に考えるべき。

施設面も工夫する必要がある

- ・管理しやすい植栽
- ・トンネルの活用
- ・活動拠点施設が必要
- ・防犯への配慮

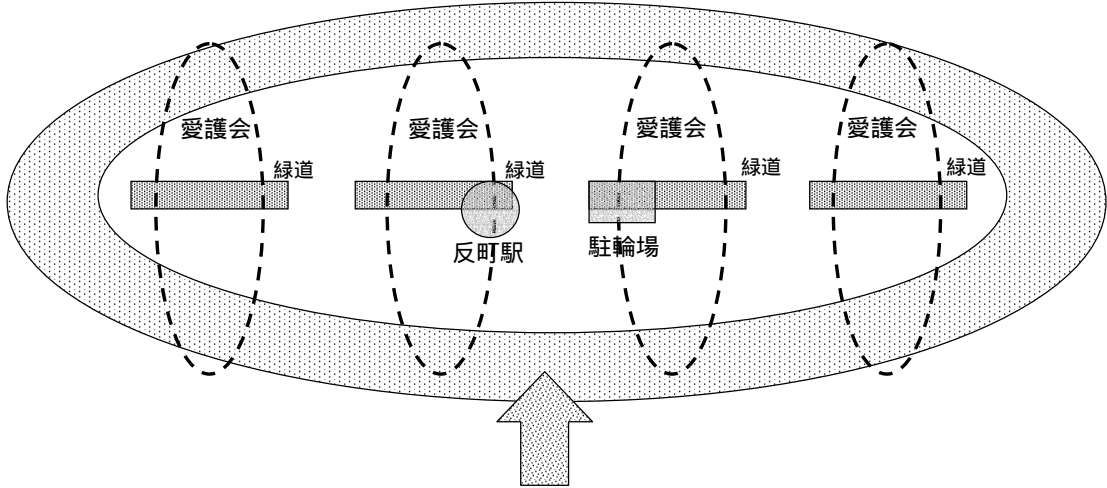


また、運営管理のしくみの検討に当たっては、検討会として目指す方向性をイメージとして図にまとめていただきました。

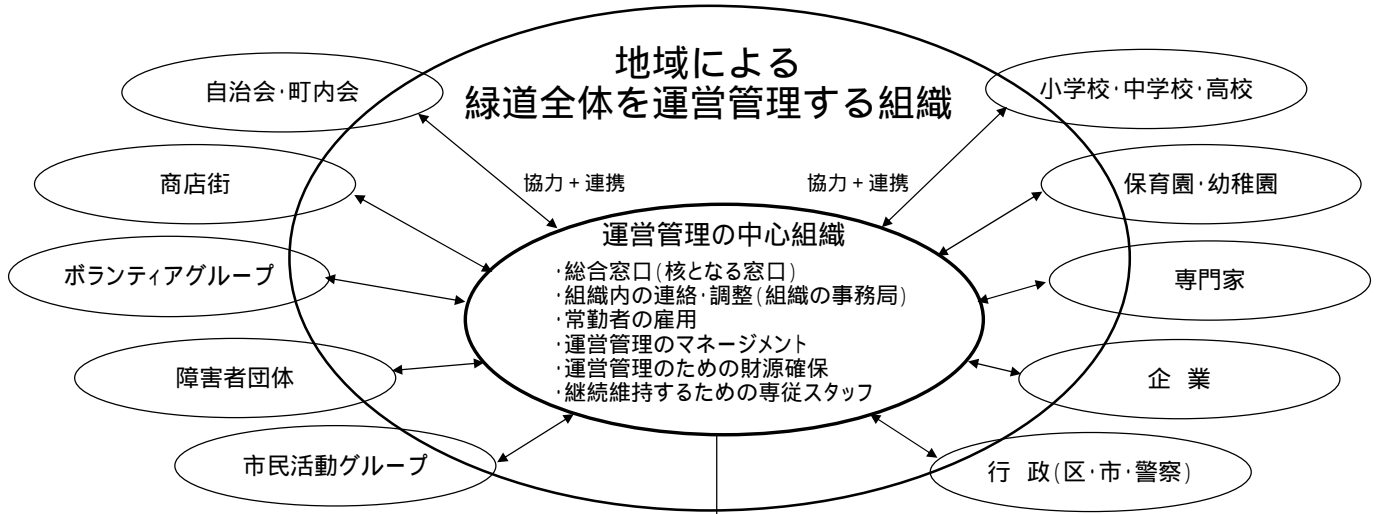
<検討会としての運営管理の方向性>

地域による緑道全体の持続的な運営管理を目指す！

(緑道の形や地域の関わりから)



(組織の視点から)



(活動の視点から)

目的別の活動グループ

例

- 緑や花を育てる活動
- 日常的な管理・防犯
- トンネルの活用
- 地域ぐるみのイベント

一般市民の参加



1グループの皆さん



2グループの皆さん

自主財源確保についてのアイデア

第5回検討会では、運営管理のための自主財源確保のアイデアについてご議論いただき、「運営管理のための収入を得るアイデア」や「支出を抑えた運営管理のアイデア」などについてご意見をいただきました。その主なご意見についてまとめてみました。

1 施設の活用や活動により運営管理のための収入を得る。

- ・トンネルの展示施設やスペース、拠点施設の集会室を貸し出す。
- ・駐輪場の管理費を収入源とする。
- ・イベントやフリーマーケットを開催し、管理費を徴収する。
- ・一坪花壇を設置して、管理費や会費などを徴収する。
- ・看板広告、街路灯への広告等により収入を得る。
- ・育てた花や福祉施設で作ったものなどを販売する。
- ・講座を開催し、受講料を徴収する。

他・・・



3グループの皆さん

2 支出を抑えた運営管理を行う。

- ・地元自治会・町内会の清掃活動と連携しながら管理を行う。
- ・地域作業所などの福祉施設の協力を得る。
- ・ボランティアの協力を得ながら、運営管理を行う。
- ・花壇を減らす等、「維持費」のかからない緑道にする。
- ・企業の協力を得る。

他・・・

3 その他

- ・ブロックごとに地域の関わりや整備の進捗も異なるので、財源確保もそれに対応した方法をとる必要がある。
- ・目玉になるテナントなどを呼んで集客を見込む。

他・・・



4グループの皆さん



5グループの皆さん

参加者の声

- ・横浜市の市民の英知を集めての検討会開催は好感が持てた。今後もこの方式を続けて、より住みやすいまちづくりの活動を。
- ・活動の拠点づくりが見えてきた点で、大変有意義な会でした。このエネルギーが次のステップにつながると良い。
- ・自分としては、活動に積極的に参加していきたい。また、地元の活動の中でも働きかけをしていきたい。
- ・財源確保は法律や近隣商店街との利害調整等、クリアしなければならない問題が多いが、避けては通れない重要なテーマであり、時間をかけて議論する必要がある。
- ・具体案をどう実行に移していくかがこれからの課題だと思う。
- ・仲間意識も高まり意見も出しやすくなった。
- ・早く運営管理組織をつくって欲しい。
- ・昼間の子連れ検討会も考えてください。

他・・・



今後の予定について

東横線地下化跡地の緑道については、平成17年度の工事着手、18年度から一部供用開始を目指しています。緑道の供用に向けて、来年度以降も引続き、地域の皆様と一緒に、緑道の運営管理等について検討を進めていきたいと考えています。

来年度につきましては、参加者の中から、「机上の検討ばかりでなく実践してみるべき」、「専門家や福祉関係の団体の方の話も聞いてみたい。」等々...のご意見もいただいております。検討会の企画や進め方についても、横浜市と検討会参加者の方々と相談しながら、協働で進めていきたいと考えています。